

令和8年8月28日

江府町町長 白石 祐治 様

鳥取県日野郡江府町小江尾632

コミュニティパークを考える会

代表 手島 和文



井上 弘樹

上原 大介

門脇 文

南葉 健一

原田 茂基

三輪 貴憲

上原 二郎

提出先 江府町町議会議長

「コミュニティパーク事業の再検討に関する要望書」

8月21日に開催された「江府町コミュニティパークに係る特別委員会内容報告会」において、「建築工事費の規模と財源」、「建築工事の進捗」、「実質公債費比率推計」についての報告を受けました。建築工事以外の事業予算（一般会計からの支出）については説明がなく、全体事業規模は明らかにされていません。江府町財政にそれほど「ゆとり」はなく、不安は残されたままです。

先月の7月議会までに公表されている資料に基づけば、全体事業規模はすでに20億円を超えていると推察されます。このうちの建築工事費16.5億円の大半を補助金と寄付金で賄う計画ですが、建築工事完了後に発生する備品購入2億円（見込み）、さらに毎年発生する運営管理費・施設維持管理費（未計上）があり、今後の一般会計に大きく影響することは明らかです。また、「サーモン養殖事業」、「駅前本屋プロジェクト」なども始動しています。

全体事業費を削減すれば受け取れる「補助金」は減りますが、一定の比率で町の財政支出も減ることになります。全体事業費削減の可能性について、行政、議会で慎重に審議していただくことを要望いたします。

趣 意 書

1. 保育園と公園の組み合わせについて

当初、「保育園らしくない保育園」のスローガンのもと、最良の環境を提供しようとスタートしたプロジェクトが、高額補助金を目当てにした「保育園」+「公園」すなわち「コミュニティパーク」に変貌しています。

現計画を俯瞰すると、「公園」施設に力点に移り、「保育園らしい環境」が大きく損なわれる可能性があります。「園児 80 人ぐらいの閑静な保育園」と「年間 12 万人集客するにぎやかな公園」の組み合わせには、かなり無理があると言わざるを得ません。

8 月から開始されたクラウドファンディング第 3 弾は、「保育園と公園を融合」した日本一の「コミュニティパーク」を作る挑戦の最終章として位置付けられています。人と人を繋ぐ体験を実現する多様なプログラム開発のための資金調達を目的としたもので、公園施設の建設を先行した後で、使用用途を決める工程で進められています。12 万人のゲストを迎え入れるという壮大な計画の進め方としては、「本末転倒」です。「保育園らしくない保育園」の「理念」や「運営方針」はすでに置き去りにされています。

2. 公園は箱もののひとつ

鳥取市で 7 月に全国知事会議が開催されました。会議メンバーの現場視察に

において、「大きな箱ものがあるのではなくソフトと組み合わせた現地や取り組み」を見て、「(鳥取県は) お金をかけない地域振興を徹底している」と評価されたと、平井知事のコメントがありました。

コミュニティパークのコンセプトは、「多様性が府をなし育む社会性」とか。「子どもたちは小さい頃から、多様な価値観を持つ人と出会い、たくさんの経験を重ねることで自分を理解し、将来の夢を見つける等、子どもたちの将来を願う保護者の声をカタチにしたものです（保育園らしくない保育園プロジェクト第3弾文中より引用）」と解説が付されています。前述の文中に出てくる「子どもたち」と「保育園児（0歳から6歳）」のイメージは、頭の中で重なり合うことはありません。人と人との出会いはとても大切なものですが、反面とてもデリケートなものです。保育園児にとっては、毎日顔を合わせる母親、家族、保育園の先生たちとの優しいふれあいがベースであって、第三者との偶発的な交流は、恐怖の対象にもなりうるものではないでしょうか。

「保育園らしくない保育園」という言葉を始めて聞いた時、「低年齢の園児たちのお昼寝の時間に、クラシック音楽の名曲を繰り返し流す」とか「高年齢の園児たちには、ネイティヴな発音を聞き取らせるキッズ英語講座を設ける」などと勝手に想像していましたが、「箱ものを作って人を集め、保育園児と交流を図り、社会性を育成する」という大胆な発想には驚きました。「低年齢層

の園児に対して社会性を育成する」とは、いかなることを示すのか想像が及びません。

3. 補助金と一般財源（税金）のバランスは難題

さて、子供たちに最良の教育環境を提供することは、私達大人の大きな役割の一つです。高額 of 補助金を得るために、子どもたちに劣悪な教育環境を与えることがあるとすれば、それは回避しなければなりません。また、多目的に使用すべき税金を使う以上、極力無駄を省かなければなりません。本事業における補助金と税金のバランスは、極めて難しい課題でしょう。「日本一」を目標としていては、最適解に近づくことはできません。

4. VE 提案はブラックボックス

2025 年9月に概算建築工事費 14.5 億円と公表されました。報告会資料によれば、それ以降 2026 年 3 月までに VE 会議が 5 回開催されていますが、2026 年 3 月議会での議論にその結果は反映されていません。それ以降、2026 年 7 月までにさらに 3 回 VE 会議が開催されています。2026 年 7 月議会では、物価上昇、コストダウン、それに施工管理費を加えた建築工事費（見込み）16.5 億円と公表されました。施設の基本的形状や機能を変えないことを前提とした狭い範囲の検討では、物価上昇を打ち消すようなコストダウンは望むべくもありません。

本計画最終案について、一般町民に対して完成予想図以外は開示されておらず、施設の規模や機能を知ることはできません。VE 提案の検討結果はブラックボックス状態で、一般町民の疑念（十分検討されたかどうか？）は晴れません。

最終案の施設配置、園庭の広さ、駐車場数など「公園」と「保育園」両方の目的・環境・広さ・機能を充分満たしうる妥当な計画となっているかどうか、関係者（公園管理者、教育委員会、保育園の現場の先生方、保護者、ワークショップ参加者など）の目線で評価することも大切だと思います。

5. 公園の運営・維持のための費用計上とルール作り

12万人のゲストを迎えるコミュニティパーク全体の管理組織については何も公表されていません。運営管理費用（人件費、清掃、警備）、維持管理費（電気、ガス、水道、下水、補修費等）などが、今後一般財源に影響します。

「公園」と「保育園」の個別の管理方法及び敷地境界の管理方法など、今後入念な議論が必要と思われます。

6. 今後の一般財源から支出

建築工事は一般財源を使わない計画と言われていますが、ふるさと納税関連基金の募集にあたっては、高額な返礼品や外部委託料などの経費が発生しています。また、建築工事完了後に発生する費用は補助金対象とはならず、一般財

源からの支出となります。完成後、早々に備品購入費 2 億円が計上されています。また、12 万人のゲストを迎え入れるプログラム開発の内容によっては、新たな施設建設、備品購入等も発生する可能性があります。

(まとめ)

コミュニティーパーク事業は、「保育園」と「公園」という異質な施設の組み合わせです。「保育園」は、本来あるべき姿に加えて、冬場の遊び場、保護者の交流施設を設けることは必要と考えています。

一方、「公園」の設置目的（特に保育園との関連性）には疑問があります。

「公園」の運営体制等が議論されておらず、今後発生する費用が一般財源にどの程度の影響を及ぼすか全く不明です。従って、「公園」については、計画が始動する前に、開園後の運営体制及び管理費用の推算を行い、今後の町財政への影響を見通し、リスクを回避することが重要と考えます。

最後に、クラウドファンディング第 3 弾の募集要項に書かれている 2 つの文章について一言申し上げます。

江府町は、果たして「人と人の分断」があり、「人と人のつながりが深刻」な状態なのでしょうか。

「私たち、そして江府町の挑戦の核心は「人と人の分断を解消し、新たな人の流れと交流の場を創出することです。」

「人口減少が進む中山間地域では、コミュニティの縮小・人と人の繋がりが深刻です。江府町はその課題が顕著に現れている町だからこそ、全国に先駆けて解決モデルを示したい。その想いで、このプロジェクトを進めてきました。」

(クラウドファンディング第3弾の募集要項より抜粋)

江府町には、伝統的な「おすそわけの文化」が強く残っています。畑で野菜が沢山とれたらご近所へ持っていく。あるいは、ご馳走を多めに作って知人に届ける。となりの住民（特にマンション、アパート）との交流が希薄な都会では考えられないコミュニケーションがあります。また、趣味の活動、ボランティア活動などで、小規模の集まりがたくさん存在しています。小さな町ゆえに複数の活動に参加している人が多く、小規模集団が連環することによって小さなコミュニティが形成されているのです。私たちは、町民によって創り出される「小さなコミュニティ」を大切に、誇りに思っています。